

## アシハラガニの行方

### ■干潟内のヨシの減少とアシハラガニ

干潟内でわずかに残っていたヨシは、残念ながらほぼ壊滅してしまった（Fig1）。Fig1の枠で囲んだ部分は枯れたヨシ群落である。地盤沈下により流入する海水が多くなったなどの原因が考えられるが、ここではその原因については追求しない。

ヨシは干潟内の水を浄化するとともに、多くの生物に生活の場を与えていた。以前の蒲生干潟には探すまでもないほど数多くのアシハラガニが棲息していた（Fig2）。しかし、ヨシがない現状では干潟内でアシハラガニを見ることはできない。周辺域を探すと、津波で倒壊した堤防にかけられたシートの影に生息しているものを少数確認することができた（Fig3）。

干潟から七北田川へ移動すると川岸にヨシが群生しており、11月16日に川からの調査を行った。気温が低下してきており、アシハラガニを見ることはできなかったが巣穴と思われるものは多数観察できた（Fig4）。不安定な干潟の環境が安定しヨシが回復すれば、川岸に生息しているアシハラガニが干潟へと分布を広げていくのではないかとと思われる。



Fig.1 蒲生干潟全景



Fig.2 アシハラガニ



Fig.3 アシハラガニ



Fig.4 アシハラガニの巣穴